

今回はピアノの調律について解説したいと思います。自分の楽器をかついでいく訳にいかないピアニストは、演奏する場所に置いてあるピアノをそのままの状態で弾くしかないので、ピアノの状態は当然気になるところです。

よく調整（調律ではありません）されていて状態が良いピアノでは、演奏自体が良いものになる可能性が高くなります。なぜなら、ジャズでは自分で弾いた音を耳で聴きながら次に弾くべき音を頭に浮かべるというプロセスを繰り返しているのです、自分の音が美しく聴こえると次にはさらに美しい音を弾こうというインセンティブになっていくためです。

逆に、ピアノから出てくる音がきれいでなく、自分のイメージ通りでないと、良いインスピレーションが湧きにくくなりますから、ピアノの状態はピアニストにとってとても重要なのももちろん、聴いているお客様にとっても大事だということになります。

◎ピッチを合わせるだけが調律師の仕事ではない

ピアノを良い状態にするのは調律師の仕事ですが、この「調律」という言葉は一般にはかなり誤解されていると思います。一般には、「調律さえすればどんなピアノでも完璧な状態になる」と認識されている方が多いのではないのでしょうか？自分も以前はそう思っていました。

つまり、状態の悪いピアノとは、音程（ピッチ）が狂っていることを意味するのだから、それさえ直せば完璧という認識ですね。ところが、調律（ピッチを修正する）は、調律師の重要な仕事ではありますが、それがすべてではないのです。

調律は、チューニングハンマーと呼ばれるツールで、弦が巻き付いているチューニングピンを締めたり緩めたりして正しいピッチにする作業です。これは見たことがある人も多いでしょう。

<http://jazzlydian.com/mailmagazine/chouritsu.jpg>

ほとんどの場合、ピアノの弦は打鍵を受けたり、時間が経つことで少しずつ伸びて張力が下がり、ピッチが下がっていくので、それをチューニングハンマーで締め直して正しいピッチに戻すという作業が中心になります。この際、直接目的のピッチにするのではなく、ジャストのピッチより少しだけ高くなるように締めてから、強く打鍵して弦を僅かに延ばすことでジャストのピッチに下げます（ハンマリング）。この作業をしっかりとするとピッチが下がりにくくなります。

この作業が中心であることは間違いありません。常に高い張力にさらされているピアノの弦は、長いこと調律をしていないとピッチがどんどん下がって行きます。そういうピアノであっても、ベース、ギターや管楽器はピアノに合わせてすることもできますが、ピッチの調整ができない楽器、例えばヴァイブラフォンと共演するととても厳しいこととなります。

これは以前もメルマガで書きましたが、ヴァイブラフォンは基準となるラの音が442ヘルツ固定なので、調律がされていなくて437ヘルツとかに下がっているピアノと共演すると大変です。実際に出演者から聴いた話ですが、ヴァイブの442ヘルツと5ヘルツも違うと、同じ音を鳴らしているはずなのに、ワフワンと唸ってしまって気持ち悪いことになってしまいます。なので、ピアノのラの音をピシッと442ヘルツにしておくことが重要なのは言うまでもありません。

◎音程だけではなく、タッチと音質も整える必要がある

このようにピッチを合わせる作業が狭義の「調律」ですが、広い意味での調律には、「整調」と「整音」という作業が含まれます。

整調とは、ピアノの複雑なアクションを調整して、すべての鍵盤のタッチを一定にすることを指します。

鍵盤を押すと、アクションを通してハンマーが弦に近づいて行って、ある時点でハンマーは鍵盤の機構から外れて、惰力で弦を叩きます。外れることをレットオフと呼びますが、どのくらい鍵盤を押した位置でレットオフするのかが、タッチを左右します。まだハンマーが弦まで遠いのに惰力に移行してしまうと、ピアノシモが出せなくなったり、フォールティシモが十分強くならなくなったりします。グランドピアノではこの画像のように調整します。

<http://jazzlydian.com/mailmagazine/letofftuning.jpg>

鍵盤を静かに押していくと惰力が働かないので、レットオフする位置からハンマーは落下しますが、その落下量をどれだけにするかもタッチに影響します。これをドロップ調整と呼びます。以下の動画でその様子が分かります。

<https://www.facebook.com/watch/?v=2118498035046107>

次は「整音」です。ハンマーはフェルトを固く巻いてあるのですが、長年弦を叩いているとフェルトに弦の形をした溝ができてしまいます。こうなると音がきれいに響かなくなってしまうので、ヤスリでフェルトの表面を削ってフェルトの皮を剥くようにするファイリングという作業をします。

さらに、ハンマーが固くしまり過ぎているとキンキンした音になるため、針を刺して空気を入れてソフトな方向に持っていったり、逆に柔らかすぎる時には硬化剤をフェルトに注入して調整します。このあたりをうまく説明している動画がありました。

<https://www.youtube.com/watch?v=EmMFJOKuIjA>

調律師は、一般的な調律の依頼をされた時には、ピッチ調整（狭義の調律）を中心に90分位の時間をかけ、あとは、必要な鍵盤だけ整調と整音をするというのが一般的だと思いますが、ピアノの状態が悪く、多くの鍵盤で整調や整音が必要だったりすると90分では終わりません。こういう場合は、「時間内にできるだけ調整をする」ことになるのは止むを得ません。

それでも、何とか聴ける状態になればまだ良い方かもしれません。弦やアクションを含む部品のどれかが消耗していたり、動きが悪くなっていると、その場での調律作業ではまともな状態にすらならないことがあります。

例えば、湿気の多い環境では、アクションの中で回転運動する部品の軸となるセンターピンという部品の動きが悪くなる場合があります。こうなると打鍵の度にキシキシと擦れるような音が出てしまいます。この症状を治すためには鍵盤を引き出してアクションを外し、センターピンを交換したり、潤滑しなければなりません、通常の調律時間内にはできません。

◎傷んだ部品があれば調律では限界がある

ハンマーフェルトがファイリングでも対応できないほど傷んでいたり、弦そのものの劣化が進み、1本の弦だけでもうなってしまう「1本うなり」という症状が出ると、弦も交換しなければ良い音には戻りませんが、こうしたオーバーホールをすると、当然調律の何倍もの費用と時間がかかります。

そうってしまったピアノの場合、いくら通常の調律をしてもヒドイ音のままなのですが、実はジャズライブ店に置かれているピアノはそういう状態のものが少なくありません。ビヨーンという響きだったり、鍵盤を少し押しただけでも下まで行ってしまい、ピアノシモが効かなかったりします。仮に定期的に調律していたとしても、投資対効果が低いので、いっそオーバーホールした方が良いでしょう。と思ってしまう。

Lydianのピアノはトップピアニストから高い評価をいただいています。「いつ弾いても弾きやすい」と常連ピアニストには言われますし、初めて弾いたピアニストから、調律から1ヶ月近く経っていたにも関わらず「調律したばかりかと思った」と言われたこともあります。

音の良さはもちろんお客様にも伝わります。日頃それほどピアノジャズを聴いていないお客様でもLydianで聴くピアノの響きの美しさに驚かれることがよくあります。これは良い素性の楽器を買えたことに加え、お願いしている調律師の腕が良いからに他なりません。

それでも、調律にはハプニングがつきものです。ある時、調律の翌日のライブの前に、一つの鍵盤だけ変な音になっていることが分かりました。結果的には、一つの音を鳴らすのに3本張られて弦の1本だけ、ピッチが高くなってしまい、正常な他の2本の弦との間でうなりが起き、印象としては変な音質になっていたことが分かりました。

この時はいつもの調律師が来て原因がすぐ分かり、ものの1分で修正してくれましたが、前回調律後異常がなかったのは確かでした。1日の間に温度か湿度の具合で、弦を固定しているピンが僅かに回り、弦のピッチが変わってしまったとしか思えないのですが、ピアノは生き物だと改めて感じさせられる現象でした。

Lydianからのお知らせ

ピアノの美しい響きを堪能できるソロピアノをLydianでは積極的にブッキングしています。楽器同士のインタープレイもなければドラムの決めもないのですから、音そのものに集中して聴くことが求められますが、ピアニストが渾身で奏でるピアノサウンドを聴いていただければ、美しさにハッとするとおもいます。

11/21（木）は、Lydianが是非聴いていただきたいピアニストの一人、魚返明未（おがえりあみ）さんが登場します。魚返さんは東京芸大の作曲家を数年前に卒業したばかりの大変若いピアニストですが、その表現技術、音楽性の高さには驚かされます。

沈潜したピアノシモのヴォイスिंगでスタンダードの魅力を表現するかと思えば、定評のあるオリジナルやフリーインプロヴィゼーションでは、全身でピアノに没入して、凄まじいばかりのサウンドの嵐を放ちます。

ジャズピアノについて普段それほど聴いていない、あるいはピアノそのものもしっかり聴いたことがないという方にこそ、是非聴いて欲しいです。自分がたくさんPRをしているので、半信半疑で聴きにきてみたら感動したという方が続出しています。

先日、魚返さんの当店でソロライブをしっかりとした機材で録音する機会に恵まれました。録音した会社が12/20に配信を開始する予定ですが、今回魚返さんの演奏を聴いていただくために1曲だけ音源を添付します。

<http://jazzlydian.com/mailmagazine/source/Basin%20Street%20Blues.mp3>

Basin Street Bluesという古い曲に全く新しい命を吹き込んでいますが、こうした曲で聴けるのは魚返さんの魅力のほんの1面です。是非、生音で聴いて下さい！

魚返明未 ソロピアノ

11/21(木) 18時半開店 19:15開演

ミュージックチャージ 3,300円

以上